令和３年度「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業　成果報告書（概要版）

宮城県教育委員会

１．事業実施前の状況と課題

本県における長期療養中の高校生に関する実態調査から、以下のことが分かった。

【長期療養により30日以上欠席した生徒数と支援件数及び進路変更等について】

年度	長期療養による３０日以上の欠席（病気／怪我）	支援あり	支援なし	転学／休学／退学
Ｈ３０	４９（４１／　８）	３３	１６	３／４／５
Ｒ１	２５（１８／　７）	１７	８	１／２／４
Ｒ２	４０（２５／１５）	２８	１２	３／３／０

【学習支援等の状況について】

- プリント等課題を与えたり、担任等が訪問による個別指導を行ったりしている。
- 病院への働きかけなど、病院との連携体制の構築に難しさを感じている。
- 連絡調整などに対する学級担任の負担が大きい。

入院生徒に対する教育機会を継続的に保障していくため、医療機関と教育機関を連携体制を構築し、ICTを活用した学習支援を実施するためのコーディネートの役割が必要である。

２．目的

病気療養中等の生徒が治療を受けながら学業を継続できるよう、入院中や退院後の自宅療養中等における教育支援の環境の整備に向け、学校、医療機関及び教育委員会等の関係機関が連携して、ＩＣＴを活用した効果的な遠隔教育の活用方法等を始め、教育の保障の在り方について調査研究を行う。

（調査項目）

ア　医教連携コーディネーターを活用した病院と学校の連携
イ　同時双方向型遠隔授業に関する環境整備
ウ　同時双方向型遠隔授業に関するデバイスの整備と活用
エ　実態調査及び事業の周知
オ　学校等への理解啓発

３．①事業の内容

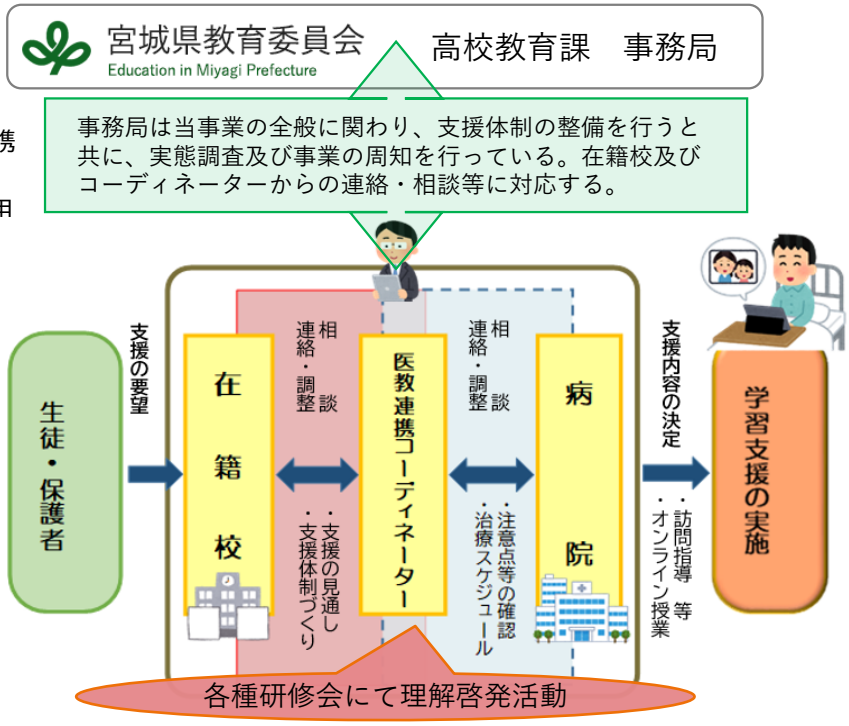
○支援体制の整備

ア　医教連携コーディネーターを活用した病院と学校の連携
イ　同時双方向型遠隔授業に関する環境整備
ウ　同時双方向型遠隔授業に関するデバイスの整備と活用

○実態調査及び事業の周知

ア「病気療養中等の生徒に関する実態調査」を実施
イ「入院している高校生に対する学習支援」リーフレット
ウ　学校等への理解啓発

医教連携コーディネーター：
宮城県立こども病院に隣接した県立高等学校に１名配置し、県立高等学校の生徒が入院した際に、病院と学校の間で連絡調整や学習支援の助言等を行う、医療機関と教育機関をつなぎ、連携をコーディネートする。



３．② 事業の成果

○ 医教連携コーディネーターは学校を訪問し、学習支援の進め方、同時双方向型遠隔授業開始までの流れ等の説明を行った。また、病院側ではカンファレンスへの参加、生徒への対応、遠隔授業の端末設定等を行った。学校側、病院側の連絡調整や機材準備等の負担軽減の一助となった。

○東北大学病院、宮城県立こども病院との連携体制の整備が進んでおり、医療ソーシャルワーカー等と医教連携コーディネーターとが連携を深めることができた。入院した高校生が学習支援を希望する場合、病院から医教連携コーディネーターに情報共有される形ができている。

○ 県教育委員会が全ての県立学校に「Google Workspace for Education」を導入していることから、各学校では遠隔授業の実施やオンラインでの課題等の配布についてスムーズに対応することができている。コロナ禍において、当事業が、校内のオンライン授業実施の手がかりになった学校もある。

○ タブレット端末（Chromebook）やテレプレゼンスロボット「Kubi」等を整備し、貸し出している。「Kubi」の活用は、教室にいる級友に入院している生徒の存在を感じさせるのに有効である。「Kubi」を授業内のグループワークで活用した学校では、入院中の生徒が病室にいながら協働作業などに参加し、活動することができた。

○ 退院後、自宅療養する場合の支援についても、医教連携コーディネーターは機会を見て状況を確認して適切な助言等を行い、入院中と同等の学習支援を継続することができた。

○ 同時双方向型遠隔授業の実施は、入院している生徒の教育機会の保障のみならず、「治療への意欲向上」「退院後のスムーズな学校復帰」に大きく寄与している。

～学習支援を受けた生徒の様子から～

４月にオンラインによるホームルームに参加することから始め、だんだんとオンライン授業の時数等も増やしていくことで、クラスとの繋がりも強くなるとともに、学校に登校したいといった意欲も高まった。退院時に本人から「やっと学校に戻ることができます」との発言があり、復学に対する不安よりも期待の大きさが感じられた。在籍校に登校後は、すぐにクラスや友人になじむことができたと報告があった。

３．② 事業の成果

○ 在籍校の定期考査や、大学推薦入試の院内受験を実施することができた。生徒や保護者の喜びと安心の声が届いている。

○ リーフレットや各種研修会等の周知活動により、各学校からの問い合わせも増えており、東北大学病院や県立こども病院以外での支援実施も増えてきている。

学校・学年	病院	入院期間等	主な支援内容	通信環境 使用機器等
①県立高校１年	東北大学病院	６ヶ月	オンライン授業(病室)、出席認定、 退院後学校に復帰	病院WiFi、iPad、Kubi
②県立高校２年	東北大学病院	１ヶ月入院 自宅療養	オンライン授業(病室、自宅)、出席認定 退院後自宅療養中の学習支援	病院及び自宅WiFi、iPad、Kubi
③県立高校３年	東北大学病院	８ヶ月	オンライン授業(病室)、出席認定、 定期考査病院受験　卒業認定	病院WiFi、Chromebook
④県立高校２年	仙台市内病院	３週間	オンライン授業(病室)、出席認定	WiFiルーター貸出
⑤県立高校３年	栗原市内病院	１ヶ月	オンライン授業(病室)、出席認定	WiFiルーター貸出
⑥県立高校１年	県立こども病院	６ヶ月～	オンライン授業(病室)、出席認定、 定期考査病院受験	WiFiルーター貸出 Chromebook、Kubi
⑦県立高校３年	東北大学病院	３ヶ月	オンライン授業（病室）、出席認定、 大学推薦試験院内受験、卒業認定	病院WiFi、Chromebook、Kubi

○ 研修会等で事業の概要やコーディネーターの役割、支援事例等を紹介した。参加者は、支援の前例がないことで校内の理解を得にくいのではないかという不安があったり、オンライン学習に必要な機材等の導入や、病院との連絡調整などのやりとりについて負担を感じていたりする様子だったが、医教連携コーディネーターの支援例や同時双方向型遠隔授業の様子を動画等で具体的に示すことで、当事業への理解を広めることができた。

○ 令和元年度から令和３年度における実態調査結果の推移から、長期療養中の生徒に対する学習支援の割合は微増であり、支援なしの割合は減少しなかった。その一方で、学習支援においてICTを活用したことにより、退学が減小した。

４．今後の課題

ア コロナ禍における学習支援体制の在り方
面会等に制限がかかる中であっても，学習支援が実施できるよう，支援の一連の流れを共有するなど，病院との連携を深める必要がある。

イ 通信環境と機器整備について
授業の配信･受信について、より良い環境、機材は何か、現状を分析して効果や有効性について検証を重ねていく。

ウ 学習支援（遠隔授業）に対する理解
これまでの実践例をもとに、学習支援の進め方や機械操作に関するマニュアルを整備し、各学校に周知する。

エ 広域的な教育支援連携体制の構築
居住地域や学校の所在地域による格差を生じさせることなく，教育支援を推進する必要がある。

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。
報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r01/1422837_00003.htm